

4) 熊本県歯科医師会 100 年と井野春毅

The 100th Anniversary of Kumamoto Dental Association and Dr. Haruki Ino

本学会評議員 ○渋谷 敦
熊本県歯科医師会会員 松本晋一

Atsushi Shibuya, *Councilor of our Society*
Shinichi Matsumoto, *Member of Kumamoto Dental Association*

井野春毅(いの・はるき)は熊本が生んだ近代
歯科医学の先覚者である。「熊本県歯科医学会史」
(昭和 32 年刊)の小伝によれば菊池郡合志村出身、
明治 7 年熊本医学校を卒業後 11 年に上京。小幡
英之助に師事して歯科学を学び、14 年東京神田に
歯科医院を開業した。17 年には日本最初の医術
開業試験委員、18 年には初の宮内省歯科侍医と
なったが、19 年に帰郷して熊本塩屋町に開業す
る。しかし 3 ヶ月で閉院。その後ウラジオストック
やハバロフスクの巡廻診療に従事。やがて東京
神田で再び開業して、26 年に結成された全国初の
歯科医師組織である「歯科医会」の常議員に選ば
れた。しかし、27 年には帰郷して天草牛深に無煙
炭採掘会社を設立。その後は種子島に渡って養豚
業に転じ、さらに明治末年には上海に開業したが、
大正元年ついに 67 歳で彼の地に没した、と報じ
ている。

この小伝で、概略その数奇な人生を垣間見るこ
とが出来のだが、さて

- 1, 熊本医学校で同窓だったという北里柴三郎と
のその後の交流は？
- 2, 明治十年戦役直後に上京するが、歯科揺籃期
の東京の状況は？ 高山紀齋との交流は？
- 3, 18 年には熊本で九州初の歯科医院開業。しか
し僅か 3 ヶ月で閉院した理由は何か？ その後の
熊本県歯科関係者との交流は？

4, 天草の無煙炭採掘会社、種子島の養豚場、そ
れぞれの実情、首尾などは？

5, ウラジオストックやハバロフスクに出向いた
理由？

6, 上海で客死する前後の事情など

東京でのエリート歯科医で終わらなかつた井野
の生涯について、小伝は「野心満々・雄心勃勃」
と書いている。しかし、当時の国策や時代の要請
とも決して無縁ではなかつたはずだ。

今、私の手元に：

明治 19 年 1 月熊本での開院予告記事（熊本新
聞）

明治 21 年 11 月東京神田での開院記事（東京日
日新聞）

明治 21 年～23 年ロシアでの診療記事（東京日
日新聞）

明治 27 年 9 月東京神田での開院広告（東京日
日新聞）

明治 37 年 5 月熊本大江町での開院広告（東京
日日新聞）

などの資料がある。

探せばまだ沢山の資料も出て来よう。今年は熊
本県歯科医師会創立 100 年にもあたる。九州開業
第 1 号の井野春毅と熊本の関係なども含めて諸賢
のご教示を仰ぎたい。